

徳本 玲央

僕たちのふるさと、天草の自然を守るためには、どうすればよいか考えた。

私が暮らす天草町は観光客が多い。そのおかげで天草町もにぎやかになる。一方、観光客が持ってくるものには、歓迎されないものもある。それは、ポイ捨てによるゴミである。

私たちの中学校では、夏休みと冬休みにボランティア活動をしている。天草を代表する海水浴場、白鶴浜海水浴場の美しさは素晴らしい。その美しい白鶴浜を守るために、ゴミを拾ったり、流木を集めたりしている。ボランティア活動を定期的に続けていかなければ、私の暮らす天草町は、ゴミ問題を抱えた、汚れた町になってしまうかもしれない。そこで次の四つを考えた。

一つ目は、「自分のゴミは持って帰る」などの看板を設置することである。二つ目は、観光客の多いところには、ゴミ箱だけでなく、リサイクル品の分別箱を設置すること。三つ目は、これまで続けているボランティア活動の参加者を増やし、町民全員が協力して活動すること。四つ目は、植林である。今ある自然を維持するだけでなく、積極的に自然を増やしていく活動をすることである。国語の時間に学習した本の中で心に残った言葉がある。「環境を変えてしまうのは一瞬。だが、それを元に戻すには、気の遠くなるような時間と労力が必要である。」

この美しい天草町を次の世代につなげるため、意識を行動に移すことのできる人間になりたい。